

# 三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル	採択コース
サトウキビ農家を貧困解決支援をする養鶏ビジネス	Aコース

学生情報	
氏名	水野聖也
所属学部・研究科	人文学部
学年(出発時)	3年

渡航先情報	
渡航先	フィリピン
渡航先滞在期間	2023年9月1日 ~ 2023年10月1日
訪問先機関等	BLJ.Philippines
訪問先機関での身分	インターン生

## 渡航概要と内容

フィリピンに住むサトウキビ農家に養鶏を副業として与えるビジネスを行っている日本人の下で、インターンシップを行った。彼らの多くは収入期に得られるたった6,000円~12,000円ほどの収入のみで家族を養っているが、収穫期が終わると収入源が無くなり、食や教育などを切り詰めて生活するようになっていく。また市場価格の変動など、特定の外部要因に家計が依存する状態にあり、貧困のスパイラルから抜け出せなくなってしまうケースが多くなっている。日本のソーシャルビジネス「ボーダレス・ジャパン」の傘下で創業された「BLJ Philippines Inc.」は、フィリピンの中でも貧困地域であるネグロス島ザンボアンギータ地域で、サトウキビ農家が副収入を得られるように、ともに地鶏を育て、レストラン等に販売するというビジネスモデルを作り上げた。当インターンシップにおいて卵の孵化率やひよこの死亡率、成長率等の改善、販売利益率と販売利益量を増やすために、商品開発、マーケティングを行った。具体的な業務内容は、新規プロジェクトの立ち上げ(地鶏の商品開発)と顧客ヒアリング、戦略の立案とプロトタイプ作り等である。具体的には、養鶏事業の展開のためのマーケティング戦略(レストラン等への営業)と、それに伴う会計シミュレーション等を行った。事業を安定させることを目標に、地鶏を使用した新規プロジェクトを立ち上げ、商品開発を行い、新規顧客の確保にチャレンジする。そのために、上述の顧客ヒアリングや、戦略立案商品のプロトタイプ作り等の業務に従事した。販売関係者との交渉現場に同行するプログラムも活動の一環として行った。

## 渡航により達成できたこと

渡航により達成できたことは2つある。一つ目は海外で我々のレストランの営業を行うことにより、認知度の向上に貢献し、結果的にレストランの売上を向上することができたことである。自分自身、国外での営業経験が初めてで言語、文化の違いからこの活動自体うまくいかない時期もあったが、トライアンドエラーを繰り返し、結果的に店の売上の向上に貢献できた。2つ目は異文化の理解が深まったことである。初渡航だったこともあり、日本とフィリピンの生活様式や考え方にはかなり驚いた。そこで毎日現地のフィリピン人と共に食事や酒を交わし、コミュニケーションをとっていくことで、だんだんと異文化の理解が深まり、自分の価値観が広がっていったと思う。また将来海外で働きたいと考えている自分にとって一国の文化の理解の仕方や受け入れる姿勢というのを実際に体験することによって、今後の自分の成長につながったと感じた。

### 渡航を通じて感じたこと・学んだこと

渡航を通じて感じたことの一つとして、貧困の凄惨さがあげられる。日本にいる我々は、メディアを通じてしか世界の情勢を知ることができない中で、実際自分の目で見る世界はすさまじいものであった。貧困地域に出向き貧困の様子を実際に見て、実際に会話を行う。私が最も強く感じたのは「子供から向けられる眼差し」であった。そこに私は、もしも自分が貧困の子供の立場であったらどうなっていたのだろうか、同情の目で彼らのこと見ていたのと同時に、この世の全ての慈善活動がすべてこれらに当てはまってしまうのではないかと、強く感じた。生まれが違うだけで、もしかしたら自分もなっていたのかも知れない…。その思いが人を動かす原動力になるのではないかと強く感じた。

### 今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

将来、自分が本当に解決したいと思った課題に取り組むための、スタートアップとなった。今回の経験から、世界には様々な課題があることを知ると共に、この課題の発見の難しさも学んだ。日本をはじめとして、世界には様々なソーシャルビジネスやNPOが存在するが、彼らが取り組む問題の根底が間違っている場合も多々あると感じた。私は、先進国の人々だけが発展途上国で得をするビジネスを「先進国のエゴ」と呼んでいる。この「先進国のエゴ」は気付かずに起こっている場合が多い。起業家がこの地域にはこのような課題があると設定し、仮説を実行した施策に関しても、実は貧困層の首を絞めている可能性もある。そうならないために、その地域の人々としっかりと信頼関係を築き、真の課題が何かを特定していく姿勢が必要である。今回のインターンシップで、本当の課題を解決するためのメタファシリテーションと信頼関係の構築を、完全ではないが学ぶことができたので、今後世界を飛び回り、課題を発見を発見する際にも役立てていきたい。

### この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

私は、今後この事業を通じて海外にチャレンジしていく学生に2つのアドバイスがあります。一つ目は、どこか海外に行ってみたい、挑戦したいと思っているが、何かしら理由があって渡航が不可能、特に経済的に実現が難しいという方には最適な制度であるということです。自分も社会的、経済的な状況から海外に行くことができませんでした。しかし国際交流センターが主催するこの事業で、自分の長年の夢を達成することができました。2つ目は、「百聞は一見に如かず」ということわざがあるように、実際に「リアル」を体感してきてほしいということです。我々は海外の情勢をあらゆるメディアを通じてしか見ることができない状況にあります。しかし実際に現場に出向くと現場でしか得られない課題や「リアル」を体感することができます。実際に来てよかったと思う時もあれば、思っていたのと違ったと思う時もあります。このような発見を学生のうちにしてことによって、将来自分が何をしたいのかが明確になり、何かに挑戦する糧になると思います。自分にはできないと思わず、何事もぜひ挑戦してみてください。

### 計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	72,000円
海外旅行保険	25,740円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	32,300円
宿泊費	25,000円
光熱費	12,000円
食費	45,000円
その他	40,000円
合計	252,040円